

金峰山の(下見)報告

石井

6月9, 10日の梅雨入りした日に金峰山へ23人で行ってきた。

横浜での霧雨が追いかけてきた様な天気で、カップを羽織る事もあり、展望はありませんでしたが、山開きの神事が見られたので良かったのでは。

一昨年、金峰山から瑞牆山の計画をしたが、応募者が少なく締め切り前に中止とした。その後から、「行きたかった」との意見を頂き、応募者が少ない時に山行の実施の是非を審議する理事会前に締切日を設定する様に変更した。

今回、小屋が小さく20名での予約しか取れず、17名の募集であったので、3日目の昼には定員を超えた。6名をキャンセル待ちにした。

「今年は雪が多いので、下見に来られるのでしたら5月下旬に」との小屋からのアドバイスで、5月28, 9日(月、火)で行く事になったのですが、天気が不安定で雷や雹が予想されたので、日曜日の植樹祭を途中で抜け出す事にした。

箱根の大雄山の丸太の森の近くの全国植樹祭の会場跡の式典終了後、松田ICから東名に乗り、富士五湖道路、吉田IC、大月JCT、長坂IC、川上村へ車を飛ばして、2時半に廻り目平に着き、小屋にこれから直接(逆コースで)行くと電話した後、登山靴が無い事に気付く。

途中から雪が出てきたが小屋にほぼ予定の時間に到着。先客1名の2人だけの客でした。

翌朝、大きなおにぎり(弁当)を見ながら、おかゆの朝食を頂く。

金峰山を越えて、鉄山に向かうが森林帯は残雪が多く、様子がつかめた事にして、引き返し大日岩に向かう。途中、足の短さを感じる所とハシゴがあるが奥秩父のメイン縦走路なので、シッカリ整備されている。

大日岩に登り、小屋で聞いた「地図には右側に書いてあるが左を通るのが正しいルート」が見つからない。下まで降りて上り返すとチョックストンの手前の急で傾いた岩面を超えた所の下左壁にペンキを発見。ここで「へ」の字に曲がるのだから、足場が悪い上にフックスの支点が取りにくい。雨や風があったら大きな(転落)事故が起きてもおかしくない。

大日岩を越えると大日小屋への標識はあるが、小川山への看板が見つからない。小屋へ携帯で電話するが、事務所では判らず。よく見ると塞がれた枝道の先に小さい小川山への看板を見つける。

廃道と思われた小川山へ道は下草も刈ってあり、静かで歩きやすい道でしたが、八丁平から下りだすと迷う事はないが歩きにくい道で、沢の中や、落ち葉に隠れた落とし穴のある道で、地図にはコースタイムが20分と書かれているが50分も掛かってしまった。

大勢の人を連れて行く様なコースではないので、コース変更が必要。時間潰し用にと廻り目平のパノラマコースの下見をし、金峰山荘のフロの予約をして、車に乗ると大雨が降ってきた。雷の雷鳴を聞きながらの帰路でした。

家に帰って、このコースに行く気にさせた「関東ぶらり山歩き」を確認すると50分と書いてある。本番の時、参加者の地図を確認したら40分、小屋で地図を広げたら時間の記載が無くなっていった。地図は新しい物と言っていたが35年前の地図は古すぎた様だ。

地図のコースタイムは平均的なレベルの方がそれなりの荷物を持って、歩いた時の時間が書かれているので、同じにはならないが参考にはなるので、想定された平均レベルとの差を把握しておく、目的地の到着予定時間が立て易い。

今回、開山式に参列したが丹沢の山開き式典には何度も参列し、渋沢隊、秦野隊、そしてTV隊の隊長も経験しているが、他の山の開山式は初めてだったので、興味深かった。

結局、時間潰し対策として採用したのは懇親会で、酒とつまみを参加者にも小分けし持ち上げた。